令和４年度　学校関係者評価報告書　　
評価点　
A 高いレベルで達成できた A とても適切である
B 達成できた B 概ね適切である
C 一部達成できなかった C あまり適切でない
D ほとんど達成できなかった D 適切でない
学校名：広島大学附属福山中・高等学校 E 判定できない
達成状況，改善策評価意 見 ・ 理 由評価
教
育
① グローバルリーダーの育成
（WWLの教育の着実な実践と
成果の普及）
グローバルな社会課題の解決に向
けた教科横断的で探究的な学びを
通じた，イノベーティブなグローバル
人材を育成するためのカリキュラムを
開発する。
ワールド・ワイド・ラーニン
グ（WWL）コンソーシアム
構築支援事業３年目にあ
たり，７月に国際会議，３
月に成果発表会を実施
し，成果を発信する。
地域を掘り起こし，世界へつながる題材を中心
に据えて開発した教育課程の成果を発信する。
WWLに関する生徒，保護者へのアンケートで，
満足・おおむね満足が80％以上を示す。
ワールド・ワイド・ラーニング
（WWL）コンソーシアム構築支
援事業３年目にあたり，７月に
国際会議，３月に成果発表会
を実施することができた。連携
校との協働活動，中学生の積
極参加が進んでいる。
Ａ
国際会議で，連携校生徒との
協働によるグループ発表，留
学生とのその場でのディスカッ
ションを行ったことなど，高く評
価する。また，成果発表会で中
学生からの活発な質問なども
あり，学校全体として探究的な
学びが進んでいる様子も見て
取れる。
Ａ
IDEC-IGS連携プログラムを継
続して実施し，連携校との協働
的な学びを通して，当事者意
識の涵養を進めていく。ＷＷＬ
（個別最適な学習環境の構築）
事業を進め，学習コンテンツの
開発に取り組み，情報発信に
努めていく。
研
究
① 研究開発の推進
（広島大学と連携した教育研
究活動の推進）
大学の教員と連携・協力した教育研
究活動を一層推進する。
教育研究大会において
は，助言者を広島大学に
依頼する。研究授業を開
発し，公開する。
大学と連携した教育研究活動に関する協力件
数を昨年より５件程度増加させる。
国際会議に向けての経済学部
や医学部の先生との連携、広
島大学トランスレーショナルリ
サーチセンターとの連携、学部
附属共同研究等、大学と連携
した研究をすすめることができ
た。
Ａ
教育学部にとどまらず，医学部
や経済学部，IDECやＩＧＳなど
多岐に亘り，幅広く大学の教員
と連携している点も評価でき
る。今後も継続して取り組んで
欲しい。
Ａ
トランスレーショナルリサーチセ
ンターとの連携を継続し，新し
いプロジェクトにも取り組んでい
く。また，ＩＤＥＣやＩＧＳの先生
方と連携したプログラムのブ
ラッシュアップに努めていく。
①　教育方法の開発，普及
（教員の個人研究・グループ
研究の支援，研究方法の研
修）
大学との連携を強化し，大学の資産
を活用して，先導的な教育方法の開
発，普及を行う。
校内研究授業の活性化と
附属学校間での授業研
究の交流を行う。大学と附
属の共同研究を推進す
る。
翠・東雲・三原の各附属学校と，お互いの教育
研究大会へ参加し合う。先導的な教育方法を
開発し，研究成果の学会発表を３件以上実施
する。
翠・東雲・三原の各附属学校
と，お互いの教育研究大会へ
参加し合い，交流した。10月に
行われた日本教科教育学会第
48回全国大会で，研究成果の
学会発表を３件実施した。
Ａ
校内でお互いの授業を見学し
合う取組を始めたことや，先生
方が自発的に協働してカリキュ
ラム開発を始めたことなど高く
評価する。このような取組を公
開していくことにも期待する。
Ａ
今後も校内でお互いの授業を
見学し合う取組を継続し，活性
化させていく。また研究推進委
員会を機能させ，他の附属との
交流の機会を増やしていく。
②　高大接続
（広島大学とのカリキュラムの
連携や入学のシステム設計）
大学の進路ガイダンス調査・研究に
協力し，入学のシステム設計に寄与
する。大学と連携し，アドバンストプ
レイスメントを実施する。
理学部の進路ガイダンス
調査に協力する。ICTを
活用したアドバンスドプレ
イスメント（AP）を実施す
る。
理学部の進路ガイダンス調査について，二学期
までに二回実施する。ICTを活用したアドバンス
ドプレイスメント（AP）について，１学期中に生
徒・保護者に発信し，３名以上の生徒を参加さ
せる。
理学部の進路ガイダンス調査
について，二学期までに二回
実施した。アドバンスドプレイス
メント（AP）について，８名の生
徒が参加した。
Ａ
今後も理学部の進路ガイダン
ス調査に協力し，理系に進む
女子生徒を支援していく。アド
バンストプレイスメントについて
も，興味のある生徒に参加を促
していく。
Ａ
理学部の調査については，今
後も積極的に協力していく。開
設講座が増えた広島大学アド
バンストプレイスメントへの生徒
の参加を積極的に促し，参加
人数を増やしていく。
③　地域連携，地域貢献
（人事交流を基盤とした地域
の学校との研究交流）
人事交流教員の派遣元府県や地域
へ，連携・貢献するためのシステム
を構築する。
人事交流教員に対する研
修プランを検討する。
人事交流教員について，交流期間中に一度は
研究会において公開授業を実施する。校内及
び公開研究会等の指導案について，ＨＰで公
開する。
人事交流教員に対する研修プ
ランの検討を進め，研究会に
おいて人事交流教員が公開授
業を実施した。
Ｃ
人事交流教員について，まず
は附属の考え方や授業方法に
慣れていただくことが大切であ
る。その上で研究を進め，交流
期間の後半で，一度は研究会
において公開授業を実施して
もらうようにすると良いのではな
いか。
Ｂ
交流期間の後半を迎える先生
方が，大学の先生に協力いた
だきつつ授業研究に取り組め
るようにし，11月の教育研究会
において公開授業を実施す
る。
④ 教育実習
（特色ある教育実習プログラ
ムの開発）
教職大学院および教師教育プログ
ラム等との連携によって，教員養成
と教員研修のあり方について検討す
る。
教員需要の減少期におけ
る学部の教育実習，教職
大学院実習等の指導方
法を検討する。
教育実習入門・教育実習観察・教育実習Ｂ・教
育実習Ⅰ・Ⅱを実施した後の学生へのアンケー
トで，満足・おおむね満足が90％以上を示す。
教育実習Ｂ・教育実習Ⅰ・Ⅱを
実施した後の学生へのアン
ケートで，100％肯定的評価で
あった。
Ａ
全国的に教員需要が減少して
いるだけでなく，教員のなり手
が減少している点は憂慮すべ
きところである。附属で教育実
習をすることで，教員になりた
いという意欲が沸いてくるような
教育実習を実践して欲しい。
Ａ
教育実習入門・教育実習観
察・教育実習Ｂ・教育実習Ⅰ・
Ⅱの系統性を踏まえ，より教育
実習生が教員になりたいという
意欲を高め，向上心を持って
取り組める教育実習の実践に
努めていく。
① 働き方改革
（業務の効率化）
検証可能な形での働き方改革を行
い，公立学校のモデルとなる取り組
みを行う。
日常業務や学校行事，校
務分掌の見直し，部活動
への外部指導員の導入を
検討し，教員間の業務等
負担の平準化に努める。
業務の効率化により，出勤・退勤時刻記録簿の
所定労働時間以外の在校時間数が年間３2０時
間を超える教員数を前年度より減少させる。
教員間の業務等負担の平準化
に努めたものの，出勤・退勤時
刻記録簿の所定労働時間以
外の在校時間数が年間３2０時
間を超える教員数が変わらな
かった。
Ｃ
生徒たちにとって良い教育を
行うためにも，先生方が心身共
に健康で，元気にお勤めいた
だきたい。そのためにも，一部
の教員に負担が偏らぬよう，教
員間の業務負担の平準化に努
めていただきたい。
Ｃ
各部の部長や係主任・学年主
任にもマネジメント力を発揮し
ていただき，運営会議などでも
情報共有しながら，ICT等の活
用による業務負担の平準化の
努力を継続し，先生方の超過
勤務を減らしていく。
② 環境の改善
（安全・安心・快適な学習・労
働環境の整備）
生徒および教職員の心身の健康と
安全な学校環境を実現する。
教育助成会や教育後援
会との緊密な連携により
教育環境を改善する。生
徒・教職員が安心して学
校生活を送るため研修を
強化する。
安全衛生委員会を中心に安全・安心のための
点検ならびに改善計画を立案し，実施する。ハ
ラスメント防止基本方針を５月までには策定し，
年度内に一度はハラスメント対策についての教
職員研修会を実施する。
安全衛生委員会を中心に安
全・安心のための点検ならびに
改善計画を立案し，実施した。
ハラスメント防止基本方針を５
月に策定し，２月にハラスメント
対策についての教職員研修会
を実施した。
Ａ
教職員同士がのびのびと力を
発揮できる環境は，生徒たち
の健やかな成長と密接なつな
がりがあると考える。今後とも気
を抜くことなく，ハラスメントの防
止に努めていただきたい。
Ａ
安全衛生委員会を中心とした
安全・安心のための点検なら
びに改善計画の立案・実施，
ハラスメント対策についての教
職員研修会の実施は確実に継
続する。
① 情報通信環境の整備
（先進的なICTの導入と活用）
GIGAスクール事業に対応した先進
的ICT教育に取り組む。学校運営に
おいてもICTを活用する。
情報ネットワーク整備なら
びに，ICT機器の整備を
継続して実施する。職員
会議や教職員間での情
報共有，保護者との連絡
において，ICTを活用す
る。
情報メディア委員会や運営会議等で情報ネット
ワークの整備・活用を促し，授業だけでなく会議
や保護者対応の場面でもICT活用を進め，出
勤・退勤時刻記録簿の所定労働時間以外の在
校時間数が年間３2０時間を超える教員数を前
年度より減少させる。
情報ネットワークの整備・活用
を促し，授業だけでなく会議や
保護者対応の場面でもICT活
用を進めたが，出勤・退勤時刻
記録簿の所定労働時間以外の
在校時間数が年間３2０時間を
超える教員数を減らすことがで
きなかった。
Ｃ
今年度は４年生の教室へのプ
ロジェクタの設置が進んだ。来
年度は是非とも５・６年生の教
室へも設置し，授業でのICTの
活用を進めていただきたい。
Ｂ
５・６年生の教室へプロジェクタ
を設置し，授業へのICTの活用
を進める。また，Google
classroom を積極的に活用し，
先進的なICT教育に取り組ん
でいく。
②入試制度の見直し
（当校の入学者選抜の内容，
実施方法の見直し）
児童・生徒のもつ，多様性を引き出
すような入試のあり方を検討し，ミス
のない厳正な入学者選抜を実施す
る。
コロナ禍により受験の機
会が失われないよう，追試
験実施のための校内体制
を整える。インターネット
出願を実施する。
11月までには入試検討委員会により入学者選
抜改善のための検討を行い,追試験実施のため
の校内体制を整える。11月までにはインター
ネット出願の導入準備を完成させる。
11月までにインターネット出願
の導入準備，追試験実施の校
内体制を整え，実際にインター
ネット出願を実施し，入試業務
の効率化につなげることができ
た。
Ａ
インターネット出願により，入試
業務の効率化へつなげたこと
は評価できる。一方で，追試験
の実施によって先生方への負
担は増したのではないかと懸
念している。今後ともミスなく，
地域のニーズに応えられる入
学者選抜方法を検討していく。
Ａ
受検生・保護者にとってわかり
やすくなるように，我々教職員
にとって負担が減るように，イン
ターネット出願を洗練させてい
く。
③生徒指導の改善
（いじめ防止，生徒理解の徹
底）
いじめ防止を徹底し，生徒の心身の
健康管理システムを改善する。
人とのかかわりわりアン
ケート，人づきあいのアン
ケートを実施する。いじめ
防止，配慮が必要な生徒
に関する教職員研修を実
施する。
人とのかかわりわりアンケート，人づきあいのア
ンケートを毎学期実施する。いじめ防止，配慮
が必要な生徒に関する校内研修を年間５回は
実施し，外部講師による研修を年間に一度は実
施する。
人とのかかわりわりアンケート，
人づきあいのアンケートを毎学
期実施した。いじめ防止，配慮
が必要な生徒に関する校内研
修を年間５回実施し，６月に合
理的配慮に関する外部講師に
よる研修を実施した。
Ｂ
日頃からの丁寧な懇談など，
生徒理解に努めることは継続し
ていただきたい。担任の先生
だけに負担がかからないよう
に，多様な生徒へ対応していく
ための，先生方の連携を大切
にして欲しい。
Ｂ
人とのかかわりわりアンケート
の実施，いじめ防止・配慮が必
要な生徒に関する教職員研修
の実施を継続する。新たにス
クールソーシャルワーカーに
入っていただき，問題を抱える
生徒や家庭に対して支援して
いく。
そ
の
他
自己評価学校関係者評価
分
野
重点目標
（評価項目）
具体的方策
年度計画（中期計画・中期目標）
との関連性
成果指標・判断基準
自己評価学校関係者評価
学
校
経
営
学校関係者評価を
踏まえた改善策
附
属
学
校
の
役
割
・
機
能
の
見
直
し